

今回受賞された皆様へ

一般社団法人 全日本建設技術協会 会長 おおいし ひさかず 大石 久和

令和2年6月25日に開催を予定していた表彰式については、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止とさせていただきます。皆様に表彰式にご出席いただき、表彰状等を授与し、直接、お祝いの言葉を述べることができなかつたことは誠に残念です。

そして、このたび谷口賞、小沢賞、そして全建功労賞等の受賞の栄に浴された建設関係者の方々、全建賞を受賞される機関へのお慶びを申し上げます。各賞を受賞された皆様方は、長年にわたり建設環境の整備、あるいは建設技術の開発に携わってこられました。その御努力に深く敬意を表するとともに、皆様方がこれからも益々建設環境の整備のために御尽力いただきますことを、心よりご期待申し上げます。また、全建の未来を育む功労協会賞を創設し、今回が初めて表彰となりました。受賞された9協会におかれましては、会員の加入促進など組織の充実を図り、協会活動の推進に貢献されたことに深く敬意を表します。

私はよく国土に働きかけることによって国土から恵みを受けるという「国土学」を標榜させていただいております。私たちが行っている建設事業というのは、いわば国土に働きかけて、何らかの恵みを国土から返していただくことです。国土に働きかけるということは、われわれにとって、より安全で快適な暮らしを手に入れるための、積極的な活動であります。これは、公共による公共への奉仕と言ってもいいものでありますが、わが世代が安全に暮らしていけるとともに、次の世代、私たちの子供や孫たちが、より安全に暮らせる環境整備をするといった努力が尊いものでないはずがありません。このことについて世間的な評価があまり高まっていないということに、ある種の苛立ちも感じております。しかし、今回皆様方が受賞された各賞は環境の整備に大いに貢献するものだと誇りを持っていただければと思う次第です。

インフラこそが社会を支え、人々の暮らしを安全にし、人々の移動を効率的にするわけで、そのことが日本経済を成長させ、その経済成長が財政の健全化を生むというメカニズムで、このことが十分理解されていないところに、皆様方もおそらく歯がゆい思いをしておられるのだと思います。全建はそういうことも含めて、インフラ、公共事業、社会資本整備の重要性、その意義を今後とも訴え続けてまいりたいと思いますし、今回受賞された皆様方はこれを契機として、さらに御自身の活動が高まり、御自身の活動が社会に果たしている意義を多くの方々にお語りいただければと思う次第です。